

名古屋工業大学は、「ひとづくり・ものづくり・未来づくり」を
理念・目標とする工科大学構想を推進しています。

MIT NEWS

特集〈創立100周年記念事業〉 〈就職〉

学園だより

vol.158



INDEX

- 01 創立100周年記念式典及び祝賀会
- 02 創立100周年記念講演会
- 03 「企業関係」就職ガイダンス・体験記
- 04 「公務員関係」就職ガイダンス・体験記
- 05 企業研究セミナー
- 06 キャリア・オフィスの活動、先輩のいる学習室、
第50回東海地区国立大学文化祭
- 裏表紙 お知らせ

創立100周年 The 100th Anniversary

名古屋工業大学創立100周年記念式典及び祝賀会

名古屋工業大学の前進である名古屋高等工業学校が明治38年に創立されて以来、本年度で100周年を迎え、去る11月1日(火)の本学記念日に創立100周年を記念して名古屋城に隣接するウェスティンナゴヤキャッスル天守の間において記念式典及び祝賀会が挙行された。

当日は、文部科学省、国立大学関係者、愛知県内公私立大学長、愛知県、名古屋市等各界の代表者、企業関係者、名誉教授、職員、工業会会員など総勢約600人の出席を得て盛会の内に進められた。

式典では、本学管弦楽団による奏楽で始まり、松井学長の式辞、近藤文部科学審議官から文部科学大臣の祝辞、長倉学長院長の祝辞、相澤国立大学協会長の祝辞に引き続き来賓の紹介、祝電の披露、本学合唱団による学歌斉唱で式典を終了した。

祝賀会では、松井学長及び市川工業会理事長の主催者挨拶、張トヨタ自動車副会長及び神田愛知県知事の祝辞、鏡割り、平野名古屋大学総長の発声による乾杯が行われ懇談が始まった。懇談の最中は、管弦楽団によるBGMが流され、学歌斉唱後、武藤元学長の挨拶により祝賀会の幕を閉じた。



鼎談・討論するトヨタ自動車株相談役・技監の池淵浩介氏、若山滋教授、中村隆教授

開会の挨拶をする松井学長

講演するラニー教授

名古屋工業大学創立100周年記念講演会

本学は、平成17年11月1日に創立100周年を迎え、創立100周年記念事業の一環として、偉大な業績を上げた本学教員及び卒業生の出版事業(通称:名工大版プロジェクトX)の記念すべき第一弾として、トヨタ生産方式を中心となって築き上げた大野耐一氏(卒業生・故人)を取り上げ出版されることとなり、出版記念を兼ね、去る10月13日(木)今池ガスホールにおいて、トヨタ自動車(株)相談役・技監の池淵浩介氏を迎え、本学学生、教職員、一般社会人等約350人が参加して、100周年記念講演会「トヨタ・ものづくり精神」を開催した。

また、100周年記念事業のイベントの一つとして、去る10月31日(月)13時30分から名古屋市中小企業振興会館メインホールにおいても『名古屋工業大学創立100周年記念講演会』を開催した。

本学では、創立100周年記念事業のイベントとして、去る7月20日には、前アメリカ合衆国国務長官コリン・パウエル氏を迎えて特別講演会を開催し、また10月13日には、上記記念講演会を開催しており、今回はイベントの第三弾として行われたものである。

今回の記念講演会は、「生体に学び生体を支援する工学の創出」をメインテーマにして、カリフォルニア大学(アーバイン校)教授のヤノシュ・ラニー氏、トヨタ自動車(株)理事・パートナー開発部長の高木宗谷氏、国立長寿医療センター総長の大島伸一氏の3氏を講師に迎えて行われ、ラニー氏からは「生体における高効率エネルギー変換の機構」について、高木氏からは「パートナーロボット-生体に近い特性と制御-」について、また大島氏からは「超高齢社会を迎えて 医工科学技術と社会のあり方」について講演が行われた。

記念講演会には、本学学生、松井信行学長を始め役員・教職員のほか企業関係者、一般市民など約600人が参加し、生体の分子機械の仕組みの巧妙さ、ロボット開発の最先端や高齢社会医療の現場からの貴重なお話に熱心に耳を傾けていた。

なお、本学では、創立100周年記念事業として、本年1月27日に『産学官連携フォーラムin東京』を東京科学未来館で開催し、11月2日・3日には『国際フォーラム』を名古屋国際会議場で開催する予定である。



名古屋工業大学創立100周年記念式典



就職ガイダンス・体験記

「企業関係」就職ガイダンス・体験記

システムマネジメント工学科 4年

山川 紋



就職活動を終えて、これから就職をする友達と話すとき多くの人が「自分にどんな職業があっているかわからない」などといった話をします。私もその悩みを1年前抱えていたので、そんな試行錯誤を書こうと思います。

私はずっと建築の仕事をしようと考えていました。大学に入ったのもそのため。だから、はじめに設計事務所のインターンシップをしたのも自然な流れでした。しかし、刺激的でよい経験になったインターンを終えて、自分で色々と考えはじめました。私が本当に楽しいと思える瞬間ってなんだろう、建築の何が一番好きなんだろう、と。そして何日も考えて行き着いた答えは、「人を喜ばせることが好き」という単純明快な答えでした。建築で言えば、住む人が喜んでもらえるような設計していることが好き。普通の生活で言えば、友達をもてなしたり、アルバイトでいえば家庭教師の生徒が指導をするうちに勉強を楽しんでくれた時が好き。答えは見つかりました。

ただ、そこからが大変。1からの情報収集。建築にこだわらず、たくさん業界を調べました。でも、情報はありすぎて、また私は迷路に迷い込んでしまいました。それが10月の話です。世間の大学生はもう就職活動を始めている時期です。しかしあせっても答えは見つからないので、私はとにかく人に会う事に決めました。人に会うといっても、名工大のOBで専門分野以外に就職した人はなかなかおらず、予定通りにはいきませんでした。ちょうど、その頃、インターンシップの案内を目にし、「これだ!」と思い、即申し込みました。その後、インターンシップと他社の会社説明会で積極的に会社の人と話すように心がけました。どこで働けば私は生き生きしているのだろうかと考えながら。

そして、インターン先の会社に気持ちが決まり、運良く内定を頂くことができました。

就職活動で一番大切なことは、生の情報。実際に会社で働く人と話すこと。インターンシップでなくても、OB、OG訪問や会社説明会などで会社で働く人と出会う機会は自分で作り出して、自分が輝ける仕事探しをしてほしいと思います。

情報工学専攻 M2年

竹村 昌也



私が就職活動を振り返って就職の決め手となったこと、それは人や会社との出会いです。

大学院1年の11月頃に就活を始めて、終えたのが6月初旬。最初の4ヶ月程は様々な業界に興味があったため、多くの企業説明会に参加していました。そんな中、徐々に志望度の高い企業が見えてきて、3月頃から自由応募により採用試験を受け始めました。

しかし、第1志望群として受けていた企業は次々と不採用になり、また第2志望群と捉えていた企業からは内々定を頂くという状況になったのが4月中旬です。このまま内々定を頂いた企業にお世話になるか、また新たに企業探しをしようかと迷っていた、そんなある時です。これから採用試験を受けるという企業の名工大OBの方から連絡を受け、一次面接の指導をして頂くことになりました。ただ、当時その企業は私にとって志望度が低く、業務についてもあまり深い知識がありませんでした。しかし、OBの方へ行って実際に話を聞いてみると、私の仕事イメージとピッタリ重なるもので、就活を始めて以来、最も大きい衝撃を受けました。その後、その企業の採用試験は不採用になったものの、OBの方には試験後も業界の知識やアドバイスを頂き、業界を一つに絞って採用活動を再出発するキッカケになりました。

そして1ヶ月余り経った6月の初旬、学校推薦を利用して無事に内々定を頂くことができました。ちなみにその企業は偶然にも、先のOBの方と同じグループ企業です。私の就活にとって、このOBの方との出会いが全てと言っても過言ではありません。

話が長くなりましたが、私がこの半年余りの就職活動で実感したことをまとめると、就職の可能性は無限にあり、どんな業界や企業、職種が自分にマッチするのかわからない。よって、それを知るために自分の志望イメージや先入観にとらわれず、積極的に様々な業界の説明会などに参加して欲しいということです。それにより、真の志望が見えてきて、自分と企業の欲しがれる人材がマッチしたとき、就職活動を終わることができると思います。

最後になりましたが、これから就職活動を始めるみなさんへ。就職というアンテナを高く張り、自分が納得のいく就職ができるように頑張ってください。

「公務員関係」就職ガイダンス・体験記

システムマネジメント工学科 4年

鏡味 志津枝



地方公務員の技術職を受験しましたので、その体験についていくつか書きたいと思います。

まず試験勉強を始めた時期ですが、本格的に勉強を始めたのは3年生の後期が終了してからです。その前の勉強は3年生の後期に土木の公務員対策の授業があったので、その授業を兼ねて勉強しました。また教養に関しては年明けくらいから少しずつ始めました。

具体的にどんな対策をしたかと言いますと、専門の土木に関しては授業の内容から出るのでその復習と、後は出る問題が大体決まっているので公務員対策の本を購入して傾向をつかむと共に、苦手な科目を重点的に行いました。教養に関しては、政治・経済といった問題が多く出題されるのとあまり予備知識がなかったので、重点的に行いました。他に判断推理や数的処理は難しくはありませんが早く解かなければなりません。ですから慣れが必要であると感じ出来るだけ多くの問題に取り組むようにしました。他の科目についてはセンター試験の知識をベースに、合間を見て勉強しました。

教養問題では時事問題が色々な分野で出てきますので、ふだんから新聞やテレビのニュースなどを見てニュースに敏感になることも必要だと思います。

公務員試験は非常に範囲が広いので、とてもではありませんが全部網羅することは大変です。ですから教養に関しては捨てる科目を作っても良いと思います。中途半端に全部手を出すのではなく、見切りをつけてやるのです。ですが、専門に関しては配比率も高いので教養の分までしっかりと取り組むと良いと思います。

また試験慣れするというところで、模試も受けました。3月の下旬に初めて模試を受けたのですが、時間も足りず要領も分らず苦戦しました。私はいつも教養の試験で時間が足りなかったため、模試は本番対策にはとても良いと思います。教養はさほど難しいわけではありませんが、量が多く時間配分を失敗すると大変です。ですから試験のペースをつかむ為にも模試を受けることをお勧めします。模試は本番よりやや難しくできているようです。模試はあくまでも模試なので、たとえ点数が悪くても、「本番で間違えなければいいんだ」と思って取り組んでください。

面接に関しては、なぜ自分は公務員になりたいのか、どうしてこの市で働きたいのか明確な考えを持っていけば、それほど困ることはありません。また公務員の面接に関わらず、企業の面接に関しても自分がどのような人間なのか、自分のアピール出来る点は何なのか言えるよう、自身を把握すべきだと思います。面接では「まず自己PRをして下さい」と言われたので、ここでうまくいけば面接の流れがうまくいくと思います。私の場合、面接でいつもハキハキ返事をして元気をアピールしました。試験ではどうしても緊張してしまうと思いますが、あまり気負いせずに頑張ってください。

最後に公務員試験は企業に比べて内定をもらうのが遅いです。ですから、進路が決まっていないうちに焦ってしまいますが人は人、自分は自分と思って納得いく就職をしてください。

社会学専攻 M2

安田 大樹



自らの国家I種試験そして、各省庁での面接を振り返って思うことをいくつかアドバイスさせていただきたいと思います。

《試験対策》

どの公務員試験もそうですが、範囲は広範囲に渡ります。そのため、しっかり計画立ててすることが大事だと思います。1日、1週間、1ヶ月単位で目標を決めてやりました。国家I種試験の特徴として、いろんな科目に時事的要素が絡んできます。新聞読んだり、時事を勉強するときは、そういうことも意識するといいかもかもしれません。やればやるだけ、合格に近づくと感じて、地道に頑張ってください。配点のウェイトが高い専門科目は、苦手科目をなくし、市販の問題集と授業で使った教科書を参考に、繰り返し繰り返しやりました。

《官庁訪問》

理工Iにおいては、近年は最終合格者の約3割が採用となっています。つまり、官庁訪問からこそ頑張らないといけません。内定後、採用担当の方が、「最近、面接で元気いいやつが少ないんだよ」と言っていたが、元気、熱意があるかどうか大きなポイントになるそうです。難しいことを言おうとせず、また、席次なんか気にせず、大きな声で挑んでください。また、面接の進め方は各省庁で違います。先輩など、面接経験者がいれば、具体的に聞いておくともいいと思います。

《説明会》

その他、積極的に説明会に参加することも大事かと思っています。これによって、行政官としての仕事の具体的なイメージがつかめ、その重要性、大きさにはとても刺激を受けました。そして、なにより勉強する原動力にもなりました。

《最後に》

名工大OBの方に、試験対策から官庁訪問対策まで多くのアドバイスや、励ましの言葉により、最後まで諦めることなく臨めました。また、友達に面接の練習をしてもらったり、周囲のバックアップは大きな力となり、非常に感謝しています。

企業研究セミナー



● 名古屋工業大学企業研究セミナーを開催

本学は、初めての試みとして、学生自らが企業の研究を行う機会を提供することを目的として、企業研究セミナーを去る11月2日(水)～3日(木・祝)の2日間にわたり本学体育館で開催した。

当該セミナーには、本学とのつながりが深い企業156社(2日:86社、3日70社)の参加を得て、主に来年度(平成18年度)卒業・修了予定の学生を対象として行なわれた。

学生は、2日間で1,673名(初日が947名、二日目が726名)が出席し、混雑時はブース間の通路が通れなくなるほどの盛況となった。

特に、初日には、トヨタ自動車、デンソー、キャノンが、二日目では、アイシン・エイダブリュ、豊田自動織機、松下電器産業等のブースが学生であふれ順番待ちで混雑した。学生の企業ブース訪問平均数は、学部生で45社、大学院生で48社となった。

また、多くの学生から今後の就職活動に役立てるための大きな動機付けとなった旨の声が多数寄せられた。

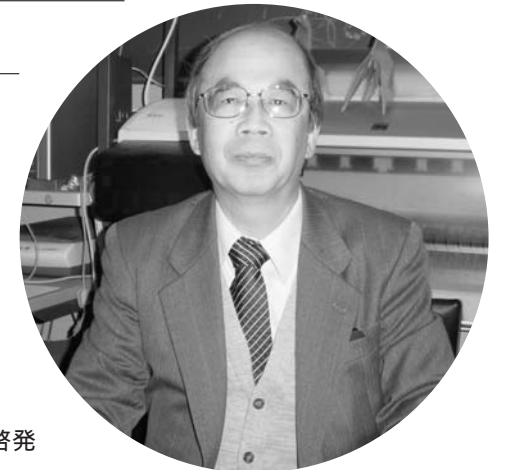
セミナー終了後は講堂会議室において、松井学長(2日目は長野理事)のあいさつに引き続き約1時間程度にわたり就職担当教員等と企業の担当者が名刺交換会を開催し、なごやかな雰囲気のもと有意義な情報交換が行われた。

今回のセミナー開催が好評であったことから、来年度も企業研究セミナーを開催する予定である。



INFORMATION

キャリア・オフィスの活動 オフィス長 甲村 和三



平成17年4月、本学にも『キャリア・オフィス』という学生就職活動支援を目的とする教育的組織ができました。すでに、講演会や企業展などで多少知名度がアップしているかも知れませんが、このオフィスでは、今のところ院生や学生諸君に直接就職斡旋をするわけではありません。学生の就職活動を支える教育体制、具体的には健全なキャリア意識を持ち、自分でキャリアをデザインする能力を育成する啓発的プログラムを開発することに中心があります。そのために講義科目の中にキャリア関連科目を開発しようとしていますし、多くの講演会で啓発的活動を行っているのです。高学年になれば就職や大学院への進学などを含めた進路選択を余儀なくされます。「どうでもイイヤ」と思えばそれまでのことです。「イヤなら転職すればいい」と思うかもしれませんが、しかし求人計画が整った大企業相手では安直にはいかないでしょう。転職で自分を売り込むには、前職の実績がモノをいいます。それなしに転職ですか?武器なしでどう闘うのですか?

キャリア・オフィスは皆さんが進路選択に迷ったり、初めての就職試験、中でも就職面接を受けるときの不安を受けとめてくれるオフィスでもあります。キャリア相談といいますが、そういう活動も行っています。各学科の就職担当教員、学生課など就職に関する指導・助言する人や組織が既にありますが、学内共通組織として再整備されるまでは当オフィスを含めて並行的に活用されることを勧めます。本学は求人という数の面ではたいへん恵まれた状況にありますが、本当に満足して就職できた人がどの程度いるのでしょうか。賢い悩みかも知れませんが、ココでイイではなく、ココがイイと言える就職をして欲しいのです。技術者としての専門知識を身につけるのは当然ですが、それをどう売り込むかー皆さん自身が求めるものをより鮮明にするために当オフィスを活用してください。53号館6階に“仮住まい”があります。

第50回東海地区国立大学文化祭

愛知教育大学の主催で「第50回東海地区国立大学文化祭」が、平成17年11月26日(土)～27日(日)の日程で、本学を始めとして、名古屋大学、岐阜大学、豊橋技術科学大学、浜松医科大学、静岡大学、三重大学の8校が参加して開催されました。

会場は「知立市文化会館」で、本学からは、音楽部門に「PMCまつりん」が出演し、日頃の練習の成果を披露しました。

“先輩のいる学習室”がオープンしました。

学習で解らないことを、学科の先輩の院生が教えてくれます。

学科の先輩だからこそ知っている情報をもらったり、他学科の先輩からは勉強の“コツ”を教えてもらう。

そんな自習室「先輩のいる学習室」を大会館2階カフェテリア横で、

月曜日から金曜日まで開いています。

一度のぞいてみてください。



58年ぶりの大雪

お知らせ

授業料免除について

平成18年度前期分

対象者：第一部、第二部及び大学院の学生で、次の(1)又は(2)に該当する者。

(1) 経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ、学力優秀と認められる者

(2) 次のいずれかに該当し、納付が著しく困難と認められる者

ア 平成17年10月以降(大学院進学予定者は平成17年4月以降)に学資負担者死亡、
又は罹災等の特別な事情があると認められる者

イ 上記アに準ずるものであって、学長が相当と認める者

資料配付は2月1日以降に行う予定ですが、詳細は掲示でお知らせしますので、掲示に注意
してして下さい。

日本学生支援機構奨学金(緊急・応急採用制度)について

家計支持者が失職・破産・倒産・病気・死亡、または火災・風水害等により家計急変が生じ、緊急に奨学金が必要になった場合は、随時申込みができます(緊急採用は無利子貸与の第一種奨学金、応急採用は有利子貸与の第二種奨学金)。

詳しくは、学生課 番窓口(第二部は第二部事務室)まで相談に来てください。

編集後記

今回の特集は、“創立100周年記念事業”と“就職”です。

昨年は、創立100周年という節目の年でもあり、本学初の試みとして、“企業研究セミナー”を開催しました。新世紀を迎える名工大は、これからどんな花を咲かせ実を結ぶのでしょうか。

寒さも厳しさを増してきて、いよいよ入試シーズンは本番に突入します。受験生が春を迎えるのは、もう少し先になりそうですが、景気や就職率は回復傾向にあり、明るい話題に満ちた年になると良いですね。

みなさんにとって、今年はどうな年になりそうですか？

(T I)

学園だよりについてのご意見、ご提案等ございましたら何でもどうぞ。

宛先アドレス gakuseika@ml.nitech.ac.jp